

CASBEE京都-新築(2015年版)
(仮称)五条烏丸ホテル計画

■使用評価マニュアル CASBEE京都-新築(2015年版)

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2015 (v.1.0)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音				3.0	0.15	3.4	1.00	3.2
1.2 遮音				3.0	0.40	3.0	0.40	
1 開口部遮音性能			客室の外部建具性能はT2以上とする	3.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能				3.0	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音			客室階の壁・床に吸音材を使用	3.0	0.20	4.0	0.20	
2 温熱環境								
2.1 室温制御				3.3	0.50	3.0	0.50	
1 室温				3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能				3.0	0.25	3.0	0.43	
3 ゾーン別制御性			ゾーン別に冷・暖房の選択が可能	4.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式				1.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境								
3.1 昼光利用				2.9	0.25	3.2	1.00	3.1
1 昼光率	●自然	A(全国版準用)		3.8	0.30	3.8	0.30	
2 方位別開口				3.0	0.60	3.0	0.60	
3 昼光利用設備	●自然	B(推奨内容)		5.0	0.40	5.0	0.40	
3.2 グレア対策				2.0	0.30	4.0	0.30	
1 昼光制御	●自然	B(推奨内容)	東側客室はロールスクリーンに加え底を設けている	2.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度				3.0	0.15	1.0	0.15	
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境								
4.1 発生源対策				4.0	0.25	4.2	1.00	4.1
1 化学汚染物質			JIS・JAS企画のF☆☆☆☆の材料を全面的に採用する	5.0	0.50	5.0	0.63	
2 アスベスト対策				5.0	1.00	5.0	1.00	
4.2 換気				3.0	0.30	3.0	0.38	
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能	●自然	A(全国版準用)		3.0	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視				3.0	-	-	-	
2 喫煙の制御				3.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	3.0	1.00	3.0
1 広さ・収納性			各客室ブロードバンド利用可能	3.0	0.40	3.0	0.60	
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	1.0	0.50	
3 バリアフリー計画	●大切	D(独自基準)		3.0	1.00	5.0	0.50	
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	3.0	0.40	
1 広さ感・景観	●とも	C(独自加点)		2.0	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-	
3 内装計画	●自然	D(独自基準)		3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務				-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震				3.1	0.30	-	-	3.1
1 耐震性				3.0	0.50	-	-	
2 免震・制振性能				3.0	0.80	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.20	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	●大切	A(全国版準用)		3.5	0.30	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			耐用年数短くなる系統は長寿命化を図る 主要な用途上位3位のうち、2種類以上使用	4.0	0.10	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				5.0	0.20	-	-	
				3.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性					2.8	0.20	-	-	
1	空調・換気設備			節水型器具を使用している	1.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				4.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備			光ケーブルや携帯電話網など通信手段の多様化を図っている	3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					2.8	0.30	2.4	1.00	2.5
3.1 空間のゆとり				1階階高3.85m	-	-	1.8	0.50	
1	階高のゆとり				1.0	-	1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)		3.0	-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				構造躯体を痛めることなく更新可能	2.8	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		2.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	2.6
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	景観条例に基づき許可を得ている	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも、 自然	A'(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制				十分な断熱を行い、外皮性能を確保している	3.2	0.20	-	-	3.2
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)	太陽光発電パネル設置	3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	BEI 非住宅 0.84 住宅(専有部) -	4.2	0.50	-	-	4.2
				BEI値0.84	4.2	1.00	-	-	
4 効率的運用					3.0	0.20	-	-	3.0
					3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング					3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	0.50	-	-	
					-	-	-	-	
4.1 モニタリング					3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護					3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水				節水コマ使用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					3.4	0.60	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				既存建物底盤を残置	5.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)	鉄骨造のため解体の際乾式壁等の分別が容易にできる	3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.70	-	-	
1	消火剤				-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50	-	-	
3	冷媒				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	2.7
1 地球温暖化への配慮				換算スコア5.0	3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮					2.0	0.33	-	-	2.0
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		1.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減				-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.33	-	-	
3	交通負荷抑制				3.0	0.33	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮					2.4	0.33	-	-	2.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1	騒音				3.0	0.33	-	-	
2	振動				3.0	0.33	-	-	
3	悪臭				3.0	0.33	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制					1.6	0.40	-	-	
1	風害の抑制				1.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制				-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●とも	B(推奨内容)		3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる